



課題 1 - 2 房総丘陵ってどんなところ？

用語解説

[鳥の渡り] 鳥類の中には、長距離の移動をし、春から夏にかけて巣を作りヒナを育てる場所と、秋から冬に生活する場所を変える種類がある。これを渡り鳥と呼んでいる。その移動は多くの場合、日本国内にとどまらずに複数の国にまたがる。日本は島国なので鳥たちは海を渡ることになる。これに対してスズメやカラス、カルガモのように、一年を通じて同じ土地で生活している鳥たちを、^{りゅうちょう}留鳥と呼んでいる。



図 千葉県白地図
(課題 1 で使用)

^{なつどり}[夏鳥] 渡り鳥の中でもツバメのように、春に日本に渡ってきて巣を作り、雛を育てる仲間を夏鳥と呼んでいる。冬は東南アジアなどに渡っていく。

^{ふゆどり}[冬鳥] ツグミや多くのカモなどは夏が終わると大陸から冬を過ごすために日本に渡って来る。このような鳥たちを冬鳥と呼んでいる。ハクチョウが冬の使者といわれるゆえんである。

^{たびどり}[旅鳥] 夏に巣を作りヒナを育てる場所と、冬を過ごす場所の途中に日本がある鳥たちは、日本に春と秋の 2 回立ち寄る。このような生活をしている鳥たちを旅鳥と呼んでいます。代表的なものにシギやチドリがいる。

^{じょうりよくこうようじゆ} ^{らくこうこうようじゆ}[常緑広葉樹と落葉広葉樹] サクラやケヤキのように春から秋まで葉をつけている樹木を落葉広葉樹、ツバキやシイのように通年葉をつけている仲間を常緑広葉樹という。落葉広葉樹は冬の寒い時期には寒さへ適応して、葉を落とし休眠状態で過ごす。常緑広葉樹も夏の前には新しい葉と古い葉の入れ替えをする。(課題の 3 答え: ①コナラ)

[ドングリ] コナラ、クヌギ、アカガシ、シラカシ、ウラジロガシ、アラカシ、スダジイ、マテバシイ(植栽)などの実をドングリという。コナラとクヌギは^{しよくさい}落葉広葉樹、それ以外は常緑広葉樹である。

[マツの木] 房総ではアカマツ、クロマツ、ヒメコマツの 3 種のマツが見られる。アカマツとクロマツはそれぞれ松葉が 2 本で、樹皮の色から名前がついたようである。ヒメコマツだけは松葉が 5 本で、庭木や^{ぼんさい}盆栽の五葉松と同じである。(課題の 4 答え: ①ヒメコマツ, ②モミ, ③スギ)